阿蘭陀外科明鑑拔萃

目録

一　癰瘇脹症篇
一　焮脹疽篇
一　乳癖
一　乳癰
一　乳巌
一　肺癰

一腹癰
一胃脘癰
一腸癰
一臍癰
一懸癰
一囊癰
一腎囊風
一凡十三篇

目録終

阿蘭陀外科明鑑抜萃

癰瘡陰症篇

夫癰瘡陰症之初起皆是在厚貲之家矣且癰瘡陽症者經氣凝滯乎陰症者府氣虛欝乎極陰症者五臟虛寒氣血損己也故陽症者易治陰症者危也極陰者死也

阿蘭陀曰夫陰症之始發生一粒一粟之點胞雖有惡寒發熱如外寒似內熱心氣肯勞脉沉微細軟是皆氣血之虛也且漸瘡不高大不赤不光不濡根沉深廣大而不紋

頻リニ下痢右間後チ大ニ下痢脈滑稀也重キ則ハ變ニ極症而死ナリ平且ツ若ゴトク陽症ノ若シ錯アヤマツテ庸醫侵ス之ヲ必ス變シテ為ナル陰症ト為極陰ト死ス也可謹可恐平矣

○治療ノ之法初發先ツエンフラストコムノースヲ為シ上膏藥トイーングエントバゼリコンヲ為シ下藥ト當ニ之瘡邊ニデヤハルニシ傳ツケテ絞結其根ヲ也是時内藥之法宜ク補ヒ氣血ヲ外發シ其毒ヲ矣如是ノ變瘡相陽證ニ脈浮洪大ニ幾至ニ正シ易キ治平右以テ仕懸ニ若シ不快要ス勿キ高發者ハ危シ宜シ以ハツバスヲ須當ツ也亦以テ艾火ヲ灸スル尤モ良法也

○バツバス方

一	ラアデキスサルテイーヤ	二十銭
一	ラアデキスミルバ	二十銭
一	ラアデキスレリヨウロニ	十銭
一	ラアデキススチイニ	五十銭
一	カチイル	五銭
一	十アガラ	五銭
一	セイモンリイ子	二十銭

一	セイモンヘチケレイツヱ	二十銭
一	テレメンテイナ	三十銭
一	ヲヽリロザアロン	五十銭
一	ブランドヒイニヨ	三合

○右水見合入タルラメイル加煉如常可當之也內藥テリヤアカ五分鷄煎汁用之越高發必變其時早開瘡其後治法同陽証門仕懸只宜補氣血和其毒快助胃氣內藥專之矣是諒一定之法也若瘡開後走散瘇邊勝早以関藥可関止焉

○関藥方

一	カルコ	十銭
一	ペツテ	十銭
一	カンフル	三銭
一	楊梅皮	五銭
一	五倍子	五銭
一	石榴皮	三銭

一石膏　七銭

○右粉浮萌涑之瘡邊府虚深方須閉止也

○極陰瘡篇

○夫瘡者生五臓之氣處虚大過氣血奪也其原皆厚味房勞厚衣飲酒外感七情既鬱積五臓之中久而騰出矣其始生勞心射役猶他病外寒内熱氣心不爽食不進便利不順自汗盗汗恍惚大息肩脊重而如坐水中時生一頭然不勝瘡却從同平肉矣

○阿蘭陀曰是証始生貞雖如一粒麻豆生瘡形陷下却餘外肉高皮厚如牛領截不疼痛不血出雖為瘡根廣大无膿而清稀瘡色紫黒面色青黄黒坐臥不安口燥舌硬音聲弱脉沉細其毒走五臓而乍死乎是証百一生希也乃極悪死証之陰瘡也

○治療之法先テリヤアカ。二三銭雞以水煎汁用焉内薬法極大変乎只急補元氣外治之法大灸癢至痛痛至痒也毎日以之其跡。インクヱントバルサム・バゼリコン。塗付瘡

一抔上ゴムドノス厚述傳之且上當纏木綿二三叉可巻之如是不尚浮發者以鐵烙刼去其毒其腐其餘。ランセイタ。截采腐肉宜通藥力乎而后ハセリコン。乎メイーチヤ。塗付之如是後猶瘡物枯燥而膿潰不熟者早バッパス可付乎

○バッパス方

一 ラアデキスサルテイヤ 剉	一撮
一 ラアデキスミルバ	一撮
一 セイモンリイ子	二十銭
一 セイモンヘチケレイツエ	三十銭
一 ラアデキスソチイニ	百目
一 ブランドビイニヨ	三合
一 古酒	三合
一 ベッキ	五十銭
一 コロクスラリエンタアリス	二十銭
一 カチイル	七銭

一 ナアガラ　五銭

一 テレメンテイーナ　四十銭

一 アキソギヤアバアカ　五十銭

一 タルラメイル　見合

○右水見合入煎之如常木綿傳可當之越瘡物潤膿色好稠可生乎其後或截去腐肉或ヘレスピタアル等バゼリコン雜合傳之上膏藥。ムズラゲニブス。去其腐肉尚空漏多膿悪伏留。ラブメント。以洗之而後腐肉去正肉

現ニテキスデイビン可産之乎仕懸法見委傷証門也故署之食物宜初養ヒリンシユ用焉矣

○ヒリンシユ方

○男子女鶏女子男鶏一羽肉骨共截酒炒水二升入二時可煮之而山巵　二両　コロクスラリユンタアリス　二銭　ナアガラ二銭
目
包布入之良久煮焉而食乎

○癰疽虚実吉凶之觀考

○一 真氣奪則虚邪氣勝則實虚不足實有餘平中和

一瘡起堅硬膿稠瘡實也

一初發瘡焮尤甚痛不可手近積日不潰寒熱往來大便秘澁小便如淋心神煩悶恍惚不寧者邪氣實也

一頭痛暈塞目赤心驚咽喉不利口舌生瘡煩渇飲冷睡語咬牙者上實也

一瘡起色赤寒熱疼痛膿水稠粘頭目脅重氣血實也

一大便硬小便澁飲食如故腹滿膨脹胸膈痞悶肢節痛口舌咽乾煩渇身熱脉大精神昏者藏府實也

一瘡下軟慢膿稀者瘡虛也

一精神不快大便自利腰脚沉重睡卧不寧者下虛也

一肩項不便四肢沉重目視不正睛不了了食不知味音嘶色敗四肢浮腫者眞氣虛也

一膿水清稀瘡口不合聚腫不赤肌寒自汗色脫者氣血虛也

一瀉痢腸鳴飲食不入嘔吐無時手足冷脉弱皮寒小便自利或時壹不出精神不爽者臟府虛也

○乳癖

○總乳癰在三別曰乳癖曰乳癮曰乳岩大凡乳癰始起者原憂鬱忿怒胃熱外兼觸風寒濕而發乎在病新陳宣寃乎乳房經陽明胃所乳頭屬厥陰肝所也或被忿怒逆或鬱悶憂思被遏依厚味生鬱熱相觸風寒風濕而厥陰氣不行故不得竅通而乳汁不出以是既陽明之血沸騰而熱甚以為膿者也

○阿蘭陀曰是證只宜開鬱散氣治療為專乎慎勿妄用針刀且乳癖症由多風寒風濕以生乎蓋始起狀無色赤而敢定頭而寒發熱甚於痛是則風濕也或不色赤癰硬敢不癰熱始在痒者是則風寒也夫風濕者初發先ヲヽリロザアロン。ラヽリカモメイル。ラヽリイベリコン。各等分合焉而溫可塗之越不散イングヱントカンフラアド。可塗若無利イングヱントバゼリコンカンフラアド。ラヽリイベリコン。各等分合焉而一杯可塗付是則溫散也

○右是仕懸由前後證量宜是不散如常而可膿亦曰風

寒治療初發先以温散油膏可牽之或バセリコンカンフラアド傚加或ラヽリイベリコンラヽリカモメイル。ラヽリカノウス右等分温合傳夏斯也若無利バセリコン下壇付上ヱンプラストバセリコンアルニコンス。ムズラゲニブス内掦宜而付之越膿散遅乃宜牽浮為膿乎是謂一定法也

乳癕

夫乳癕者原於怒憂思過多由欝氣因熱以生或在吞乳子胸有滞痰含乳而眠口氣焮熱而吹毒氣吹遂生結瘇其外論症皆同前始忍疼揉可核軟也

阿蘭陀曰夫乳癕出乳房癕也蓋癕通癰也且始起状有寒有熱瘇硬疼痛在悪寒發熱而上下左右攣急痛通胸張乳則毒彌攣痛故ヘントウサツ以吸乳水而緩攣急初發先以膏油温散掦是乎無利ムズラゲニブスメリロウト加煉合可付之如此不散者如常可膿乎亦見於悪症バツバス可仕懸乎

○バツバス方

一 スミツメリロウト　十銭

一 フロウリスカモメイール　十銭

一 フロウリスロウザ　十銭

一 ラアデキスニルバ　十銭

一 フウリサルデイヤ　十銭

一 コンソウリダニヨウル　十銭

一 セイモンリイーチ　十銭

一 セイーモンヘチケレイツエ　十銭

一 ズウトホウト　十銭

一 タルラメイル　見合

○右細末入水煮爛如常付之乎隨症加酒酢膿有如楂
唯宜散鬱硬緩乎（○案亦乳核治法交瘤瘀流注篇例可治之乎）

○乳岩

○夫乳岩症久乳邊結核瘇結不痛而不痒而甚硬如岩寖
漸經歳而以為瘡岩巖崎堅難治也然未破者若可治也

蓋是症専多婦人病焉是皆鬱氣思情過多為生也

阿蘭陀曰是症十數八九者難治初結核而大硬數年如是漸破無膿膿有粘者於后而燥枯或多生漏瘡如崎崩木瓜潰故名曰乳岩乎蓋四十以上人有是症多不可治也初發未破之時宜先散鬱養血緩硬猶以和解膏油而揣焉也或ラヽリカノフス 大 ラヽリテレメンテイーナ 中 ラヽリカヲイール 少 ラヽリハツハアヘレス 少 ラヽシコロシヨシ 中 紅花 中 右湅合述木綿或和紙塗之發藥引痛類而又不可用也

傅是膏藥無久理宜ハツハス可當也

○ハツハス方

一	牛乳	二十錢
一	タルラメイル	二十錢
一	ラヽリユンタアリス	二十錢
一	ラヽリロザアロシ	十錢

○右如常以緩火煮爛之宜當是儻是無利亦餘ハツハス可當也

○バツバス方

一 ラアデキスサルデイヤ　四十銭

一 ラアデキスマルバ　四十銭

一 ラアデキスレリヨウロシ　四十銭

一 フウリサンブイーシ　四撮

一 フロウリスカモメイル　四撮

一 フロウリスメリロウト　四撮

一 セイモンヘチケレイツエ　十銭

一 セイモンリイチ　十銭

一 ヲミリカモメイル　七銭

○右如常煮爛而宜付焉乎

○或破後治療揣宜而須發明若破後甚虚燥之痛者

一 ヲミリアニシト　二銭

一 ヲミリカラアブス　三銭

一 ペツテワアス　少

○右湅合イーングエニト成可堪之越和硬膿水出而甚

得利乎若瘇物大燥スヽリハンナアヘル。一銭加乎其痛ズウトホウト為粉而加五分若血是サンゴスメラゴウニス。加五分瘇物寒燥スヽリハンナアユルコロクス。ラリエンタアリス加三分是諒至當之方也其後仕懸揣宜當之也

○肺癰

○夫肺癰始起原感受風邪而咳嗽久不止則其肺既生熱毒而為肺癰也或炙肉厚物亦伏飲酒過多而起也症有隂陽曰肺癰曰肺痿肺痿是肺疽也

○凡肺癰之考口乾喘滿咽渇已渇甚則四肢浮瘇口腥臭而咳唾膿血胸中微痛是則肺癰也呕吐膿止者可治也既唾膿血久々如硬米粥者難治乎

○肺痿者久嗽而不已汗出過多津液枯渇以為大便如爛瓜下如豕肢小便數而不渇是則曰肺痿曰肺疽欲渇飲者瘥乎蓋肺疽不出膿是則肺隂疽也都肺癰疽當面色白不赤治乎

○案是症医說曰卒而千瘻不用者名曰肺痿之症是則肺經之虛痿也

○肺癰脉寸口數而實者是肺癰也微緊而數者未有膿也若緊甚數者已有膿也亦短而濇者自痊浮大者難治乎

○肺痿脉寸口數而虛疽也餘同前

○傳曰肺癰輕肺痿重肺癰其邪深實病則既其邪傷肺之正氣事為肺痿是則肺疽也蓋癰者實疽者虛癰者易治疽者難痊但其症考寸口脉數而咳中綿濁涎咽口燥咳胸中隱々而痛脉又滑數是則肺癰也胸痛不止咳唾膿血吐或肩膊痛重則兩手瘻其脉數而虛者此則肺痿也

○阿蘭陀曰茲皆依風邪食物房欲火肺金剋而生是症見立大變也始惡寒發熱咳嗽而後熱冷胸中痛不咳已痰俱吐膿血腥能膿吐時痊乎

○内藥方

一　セイモンヘチケレイツエ　一撮

一　セイモンリイチ　一撮

一	フウリーニルバ	一撮
一	カツヘレヘチレイス	半撮
一	ヒイコス	十
一	ラジイチ	二銭
一	アルヘル	十銭
一	○ズウトホワト	十銭
一	ヘニクリザアト	一銭
一	デバルバ	四銭
一	シリユンタアリス	四銭半
一	ゲンブル	五分

○右水入三升ニ不ケ氣出デ様ニ二升ニ煎シ去リ糟ヲ采リ精汁ヲ一日六十銭用之也胸ニバツハスヲ可付也

○バツバス方

一	セイモンシリイチ	三十銭
一	セイモンヘチケレイツ立	三十銭
一	ヒイコス	十

一 アルトンカ　二十銭
一 フロウリスカモメイール　十五銭
一 テレメンテイーナ　二十銭
一 フランドヒイニヨ　見合
○右煮爛シ煉合而付胸痛ニ無疑利餘方可當乎
○内藥方
一 ラアデキス せイリ　一撮
一 ズウトホウト　三撮
一 フウリテストル 陰干　三撮
一 チイナ　一撮
一 アチイシ　一撮
一 ヘニクリ　一撮
一 イノンド　一撮
一 アギリモウチ　一撮
○右水入五升ニ三升ニ煎シ而用ユ需其間
一 メリロウザ　三銭

一 メリヒヨウル	三銭
一 メリバツバアヘヒス	三銭
一 アラキ	三銭

○右煎用薬亦粉薬用之乎

一 コラアル	三分
一 モミイ	三分
一 ラクリカンキリ	三分

○右粉内薬間少宛可用薬

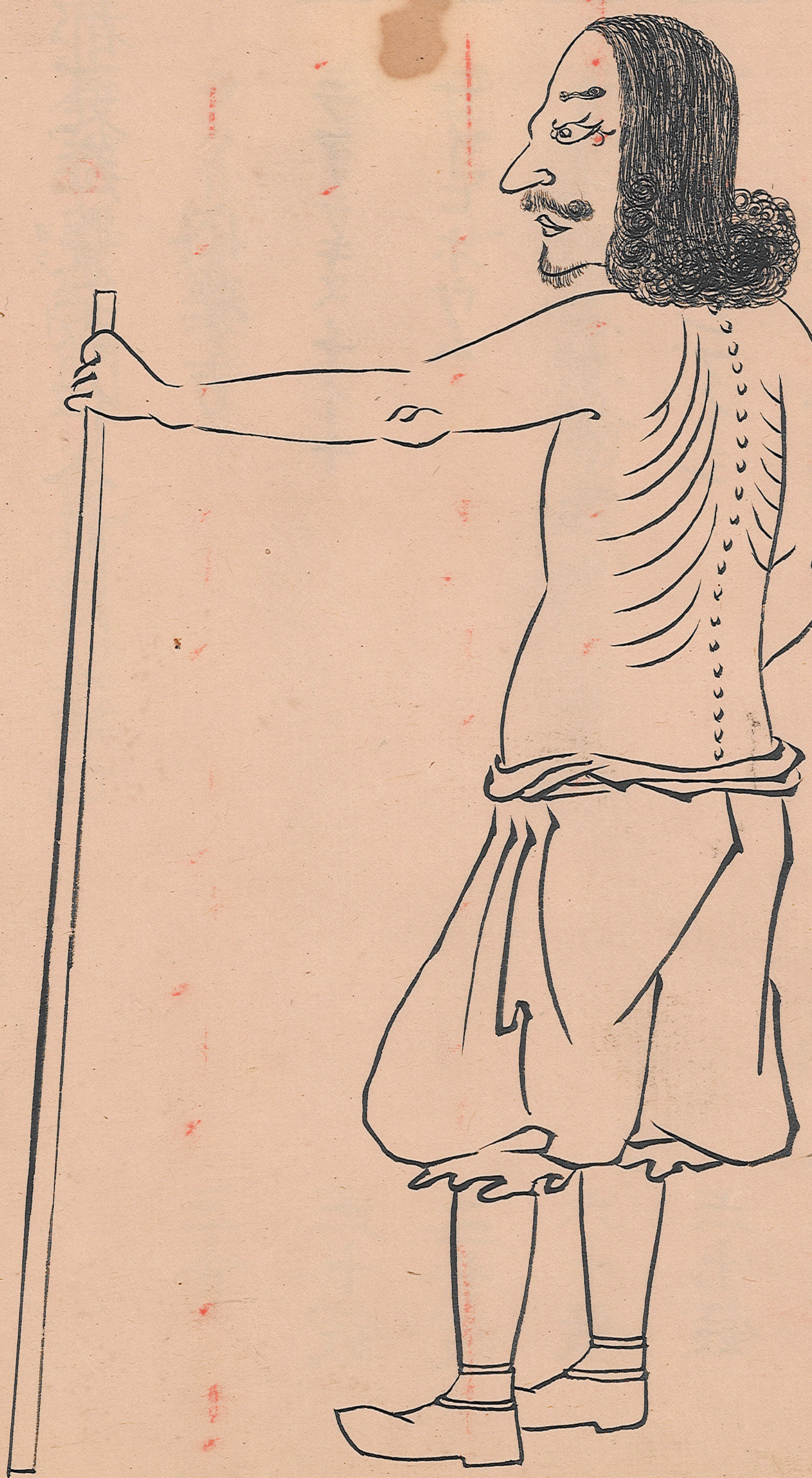
○都是症薏苡仁水煎用之妙也

○内薬方

一 ラアデキスチイ十	六十銭
一 セイヒホウム	三十銭
一 カツヘレヘチケレイス	六十銭
一 フレイルサンデイシ	六十銭

○右煎用薬痛強ラミリラウリイチ温壜付其上ムズラ

ケニブスヽ可付如是不痊可成針平見宛貼圖矣



○膜癰

○夫膜癰者惣出于膜癰也伏七情飲食鬱熱而以生乎症

有虚熱矣

○阿蘭陀曰是症分寒熱虚實可治之仕懸癰疽及虚實風

痰濕以論所可推之臨症剤宜而已

○胃脘癰

○夫脘癰始起食滞悪血思情過多而以生乎有生内外矣

○阿蘭陀曰是症生胃上脘癰也蓋初發為瘇痛宜散之乎

歟末散膿ムズラゲニブスコム〻ス類以可膿者仕懸如常亦有内生通閉鬱塞調中有膿可用拂下膿血内藥乎有委口傳矣

○腸癰

○夫腸癰始起由飲食火而生乎初發小腹瘇重壓是則痛小便數麻時々出於汗後悪寒身皮甲錯腹皮如急瘇状甚者腹脹大轉側有水聲或遶臍生瘡腸癰脉遅緊未有膿洪數已有膿也

○阿蘭陀曰是症初發臍小腹邊硬痛有膿臍出或大便膿血臍出者難治乎克大便出盡則治也蓋婦人産後虚熱多者是症初發フルガアシヤ可用乎デバルバ粉以為丸一銭用白湯服之臍小腹ムズラゲニブス可付之大便結則病増也其後

○下方

一　フロウリスカモメイル　一撮

一　スミツメリロウト　一撮

一　デバルバ　二銭半
一　アルロイ　二銭
一　チヘクリ　一撮
○右水入二升外五合ニ一升外煎去糟ヲリロザアロン　二十銭
雑合不熱不温様シリンガ入可肛門弾入乎如是三日
一度也且是症相類者有之内痔其症在腔子而向頭
内宜以内托藥壓出外表瘇起コムヽノスヽムズラゲノニブス
等宜以膏藥刺針而治之矣

○臀癰

○夫臀癰者出尻大肉癰也雖為足太陽多血氣運不到血
亦稀也多中年後患是症考見脉虚弱乎専滋神氣血矣
○阿蘭陀曰是症多年老人愁之皆不氣血運行故也有症
虚實見多虚殊肉厚故其瘡深也初發色赤疼痛大硬若
縹風者浮軟也アルフンカンフラアト傅可散之不散コムヽノ
スムズラゲノニブス等分合之而可付焉有膿早啓君メイチヤツ
指而可瀉膿若始發見虚者早牽浮温補矣口開臨時量

症云云

○懸癰

○且懸癰症任脉起會陰督脉起出長強邊癰也始發小狀紅子無硬軟定而疼痛也

○阿蘭陀曰是症大変也有肉深則危痛甚乎寒熱膿散膏藥隨症大凡ムズラゲニブス以為第一若不散コムノ〜ス下ハゼリコン付可膿也既有膿男左女右去中筋而針出膿血メイチヤ揩瀉其膿其後如常矣

○囊癰

○夫囊癰陰囊出産物乃濕熱注下也仗濕熱而有發也

○阿蘭陀曰是症初發如小瘡見頭其色赤出生次第膿有而皮脫也未膿者カンフラアトスタンコロスト類可散之不散者ムズラゲニブスコムノ〜スハゼリチナリホウロム償可膿之其後任懸如常乎雖皮脫睪丸懸者皆不死也皮脫以青荷葉包之自生皮也

○阿瑠麻奴須曰睪丸落截而生者有數多之症一條不可論

之矣

○又一証因濕瘡先腫痛甚而攣急惡寒發熱無定者初發先ヅヲリヘ子クリヲリカモメイル合之温之可塗之若熱甚ヲリロザアロン加之兼濕ヲリイヘリコン加可塗之越不消散ムズラゲニブス可付之有消不消ムズラゲニブスゴム〜ノス等分合之而付可濃為膿押退罨丸不内筋當様去中筋可刺之其後如常平

○腎囊風

○是症者陰囊濕而痒既抓之時後或痛或惡寒而發熱流出黄汁漬爛而不治也是皆肝腎膀胱陰濕也

○阿蘭陀曰初發先痒而不止イングエント。ヌツテレイトシアルユニ微加可塗之若不止ラブメント以可洗之矣

○ラブメント方

一 ラアデキスチイナ	一撮
一 フウリアフセンテヨム	一撮
一 フレイルサンブイーシ	一撮

一　フワリブランダアコ　一撮

一　アルユン　五銭

○右水入五合煎洗之其後ヌツテレイトン可貼乎若抓破或痒或痛前ラフメント洗之其跡可付粉藥乎

○粉藥方

一　セルウザ　五銭

一　カルコ　三銭

一　フルテイールカンフル　五分

一　ヘツテ　二銭

一　稲早藁灰　三銭

○右一合可付之以是治也